

白樺サロンの会 設立趣旨

〔名称〕

1. 本会を「白樺サロンの会」と称する。

〔目的〕

2. 本会は、奈良高畑界限に残された遺産の継承とその文化の発展をはかることを目的とする。この遺産とは、とくにつぎの二棟の建物（登録有形文化財）を指す。

① 志賀直哉旧居

② 中村家主屋（旧足立源一郎邸）

〔事業〕

3. 本会は前条の目的を達成するために、以下の事業をおこなう。

① 研究会、講演会の開催

② 冊子、会誌等、必要な公刊事業

③ その他、本会の目的達成に必要な事業

〔会員〕

4. 会員は、本会設立の趣旨に賛同する者をもって構成される。

〔その他の事項〕

5. その他必要な事項について、協議する。

白樺サロンの会の活動

（平成19年～平成20年）

* 中村家主屋（旧足立源一郎邸）公開 講演「エキゾチシズムの時代―奈良高畑の遺産」 呉谷充利（相愛大学教授）於 同アトリエ 平成19年11月24日

（平成20年～平成21年）

* 志賀直哉旧居保存運動30周年メモリアル

第一部：シンポジウム「旧居保存運動の思い出」

パネラー：松田親典（奈良学園・奈良文化女子短期大学学長）

中村一雄（洋画家）

浅田 隆（奈良大学文学部教授）

コーディネーター：弦巻克二（奈良女子大学文学部教授）

第二部：メモリアル・コンサート

演奏者：多賀みずほ：ピアノ

相原 瞳：ヴァイオリン

大西泰徳：チェロ

第三部：親睦会 於：奈良女子大学生協食堂

於：奈良女子大学記念館 講堂

平成20年10月4日（土）

* 「志賀直哉旧居」復元修復工事（奈良学園）安全祈願祭参列

平成20年10月30日

* 作家・池田小菊について 弦卷克二（奈良女子大文学部教授）

画家足立源一郎の生活等 中村一雄（洋画家）

「白樺（しらかば）サロンの会」フォーラム

於：中村家住宅（登録有形文化財）平成20年11月22日

* 『白樺サロン』創刊号（平成20年3月）

内容紹介

「白樺サロン」創刊に寄せて

呉谷 充利

土堀 鹿 花

杉本秀太郎

志賀直哉旧居と谷崎潤一郎の観音像

梁瀬 健

奈良高畑の遺産 ―エキゾチシズムの時代―

呉谷 充利

奈良高畑と美術家

平瀬 礼太

エコール・ド・パリの画家

中村 一雄

中村義夫の画業と恋文

中村 一雄

高畑の景観を考える

浅野 詠子

（平成21年～平成22年）

* 志賀直哉旧居復元修復工事

竣工式参列

平成21年5月2日

* 『白樺サロン』第二号（平成21年3月）

内容紹介

消えた志賀直哉の石

梁瀬 健

池田小菊未発表原稿「東京」

弦卷 克二
吉川 仁子

高畑のアトリエ

呉谷 充利

「奈良を描く」ことについて

平瀬 礼太

「室内」を描いて40年

中村 一雄

奈良の高畑町界隈

金澤 清弘

―「志賀直哉旧居」の保存に光り―

橋元淳一郎

愚想雑感

（平成22年～平成23年）

* 『白樺サロン』第三号（平成22年3月刊行）

内容紹介

志賀直哉旧居 ―私の文学散歩―

熊又 賢（梁瀬 健）

新薬師寺と志賀直哉旧居

呉谷 充利

―奈良に流れる時間―

弦卷 克二

池田小菊未発表原稿「指」

吉川 仁子

奈良の近代美術と戦争の時代

―「懸崖ニ奇ル木炭増産」をめぐる―

平瀬 礼太

戦時下の旧足立邸・中村邸

中村 一雄

* 志賀直哉旧居特別公開講座

平成22年度夏期特別公開講座「奈良再発見」

1. 志賀直哉と奈良―奈良に流れる時間

呉谷充利（相愛大学教授） 7月19日

2. 志賀直哉と谷崎潤一郎の観音像

梁瀬 健（大阪教育大学名誉教授） 7月26日

3. 志賀直哉をめぐる人々

弦巻克二（奈良女子大学教授） 8月2日

4. 奈良高畑と美術家 平瀬礼太（美術館学芸員） 8月9日

5. 志賀さんに会った頃 中村一雄（洋画家） 8月23日

*平成23年度夏期特別講座「奈良高畑に佇んで」

1. 訪ねて来た小林秀雄 —モオツアルト—

呉谷充利（相愛大学教授） 7月18日

2. 志賀直哉の文学

弦巻克二（奈良女子大学名誉教授） 7月25日

3. 片輪車手箱の流転

梁瀬 健（大阪教育大学名誉教授） 8月1日

4. 奈良の近代美術と戦争の時代

—「懸崖ニ倚ル木炭増産」をめぐる—

平瀬礼太（姫路市立美術館学芸員） 8月8日

5. 高畑と景観 中村一雄（洋画家） 8月22日

（平成23年～平成24年）

*扁額『直哉居』受納式参列於…志賀直哉旧居

平成24年9月11日

*平成24年度 志賀直哉旧居秋期公開講座

1. 谷崎潤一郎・志賀直哉の観音像と文学

呉谷充利 9月10日

2. 志賀直哉の文学

弦巻克二 9月17日

3. 物理の時間、生命の時間

橋元淳一郎 9月24日

4. 志賀邸、隣家中村義夫滞仏の記録「ノスタルジア」

中村一雄 10月1日

5. 幻の観音様とご対面

梁瀬 健 10月8日

6. 奈良と銅像

平瀬礼太 10月15日

編集後記

志賀直哉と禅

志賀直哉の宗教性を禅の視点から述べたものである。志賀直哉の日記、手紙、作品をたしかかな資料としながら、祖父・直道、叔父・直方を通していわば自然なたちで現われる宗教とのつながりは、志賀直哉像にたいする深みと相まって、清涼な読後感を漂わせるものになっている。

瀧廉太郎と荒城の月

ほとんど知られていない「荒城の月」の創作をめぐる話である。明治の欧化政策のなかで、この曲は「我が歌詞に基きて作曲したる」ものであった。改めていわゆる芸術や音楽がそれぞれの国土とつながって生命を得ていることに気付かされる。土井晩翠の詞をもって作られたこの曲目の美しさは偶然のものではなかったのである。

彫刻と傷痍軍人

朝倉文夫「再起の踊」（第四回新文展出品 一九四一）に改めて光りを当てるところは、著者ならではの視点である。「この彫刻で何を表現したのであろうか」という一文はそのまま著者の美術論を示唆する。不思議にその彫刻は戦争をテーマにしながそれを超える人間の深部の感情を見せてくる。著者の眼において見えるものが浮かび上がってくる。

ノスタルジアⅡ

奈良高畑界限、春日の森で撮影された「羅生門」のロケを皮切りに、文芸作品と往年の映画のロケ地を巡るいわば旅である。この著者であればこそ、眼にし得たその光景が綴られる。望郷的な今はなきシーンである。歴史と無縁になりがちな近代への抵抗がじつは隠されたテーマになっている。タイトルの「ノスタルジア」がこのことを示している。

相対論の直観的認識について

著者はまず「人が世界を理解するといふとき、そこには何かしらの直観が伴っている」と述べる。その直観は岡潔のいう「感情」とつながっている。この見方から、いわゆる難解で分かる人は世界に僅かしかないと云われたアインシュタインの相対論に迫る。著者の解説により、最先端の知が驚きをもって人間の側に近づいてくる。

夏目漱石と志賀直哉―漢籍から美術へ

志賀直哉は画家になりたかつたとも云う。自身による絵はその力量を十分に感じさせる。絵は対象を克明に描写している。文体に通じているリアリズムは深く精神の意味に届く。学習院の図画工作にはじまる直哉の美術の意義が漱石の漢籍と比較されながら、作品を交えて述べられる。新たな見方といえる。

(K・M)

ご退任慰労会

志賀直哉旧居の復元に多大なご尽力をいただきました佐藤至則事務局長
(学校法人奈良学園)のご退任慰労会。



前列左から、中村一雄、佐藤至則、山本規子
後列左から、呉谷充利、橋元淳一郎、弦巻克二、北森貞次、山本吉治
(敬称略)

平成 24 年 4 月 7 日 (土) 於：梅田阪神デパート 10F 黄老
(白樺サロンの会)

執筆者紹介（本文執筆順）

呉谷充利（くれたに みつとし） 一九四九年、三重県生まれ。相愛大学人文学部教授。著書『志賀直哉、上高畑の「サロン」をめぐる考察』（創元社）『近代、あるいは建築のゆくえ』（創元社）『志賀直哉旧居の復元』（学校法人奈良学園）他。

弦巻克二（つるまき かつじ） 一九四七年、新潟県生まれ。奈良女子大学名誉教授。専攻は日本近代文学。主要論文「ねむり看守」（『論集 泉鏡花第二集』有精堂ノチ和泉書院）「関東大震災と鏡花」（『ことばとこゝろ』第十集）和泉書院）「中島敦「北方行」管見」（『叙説』平成九年三月）他。

梁瀬 健（やなせ たけし） 一九三三年、長崎県生まれ。大阪教育大学名誉教授。著作等「現代大学教育と新島精神」（新島研究六六号 一九八四年）「明治期のキリスト教教育と新発見の新島書簡について」（新島研究八二号 一九九三年）『梁瀬戈登随筆集』（近代文芸社 一九九九年）他。

平瀬礼太（ひらせ れいた） 一九六六年、千葉県生まれ。美術館学芸員。著書『講座日本美術史6 美術を支えるもの』（共著、東京大学出版会）、『戦争と美術』（共著、国書刊行会）、『戦争のある暮らし』（共著、水声社）、『銅像受難の近代』（吉川弘文館）（第23回倫雅美術奨励賞）。

中村一雄（なかむら かずお） 一九三五年、奈良市生まれ。洋画家。光風会会員。奈良高畑の志賀直哉旧居の保存運動推進・達成に尽力する。ローマ・フィレンツェで大作個展（一九九八）。日本橋高島屋で個展（二〇〇八、二〇一二）。著書「奈良高畑の志賀直哉旧居」保存のための草の根運動」。

橋元淳一郎（はしもと じゅんいちろう） 一九四七年、大阪府生まれ。相愛大学人文学部教授。著書『時間はどこで生まれるのか』（集英社新書）『神の仕掛けた玩具』（講談社）。日本文藝家協会、日本SF作家クラブ、日本物理学会、日本天文学会会員。

りずむ 第二号

平成二十五年三月二十五日印刷
平成二十五年三月三十日発行
定価（本体五百円＋税）

編発行者 白樺サロンの会

呉谷 充利
橋元淳一郎

事務局 〒630-8301 奈良市高畑大道町一二四七

〇七八(四五三)五五四五

印刷所 〒615-0052 京都市右京区西院清水町十三

協和印刷株式会社
〇七五(三一二)四〇一〇